

## 〔Ⅱ〕英語Ⅰの授業実践例と生徒の意識

### ——高校英語をきらいにさせないために——

山田 雄一

#### 1 はじめに

指導要領の改訂にともない、中学英語の週3時間体制が全国的に実施されはじめて3年を経過し、各中学校でも、週3時間の英語授業が定着してきた時期だと思われる。必修単語数も、文法事項も、旧指導要領よりも減ったとはいえ、英語という科目は、中学校で初めて学習する教科であり、現場の英語教師たちは多大な苦勞をしていると思われる。本校でも、\*<sup>1</sup>いくつかの試みを通しながら、週3時間への対応を工夫してきたが、中学校卒業時における英語力というものが、週4時間時代よりも劣るのは否めないことである。

現在、そういう中学生たちの約95%が高校へ進学し高校英語を学習するわけであるが、従来のような形で高校英語を教えていたら、中・高のギャップは深まるばかりで、高校1年生の段階で、「英語が急に難しくなり」、「英語がきらいになる」生徒が増えるばかりであろう。もちろん、そういうことのないように、高等学校でも昭和57年より、新学習指導要領が実施され、高校1年生に、英語Ⅰという科目を履習させることになった。しかし、指導要領が新しくなったとはいえ、我々英語教師自身が全く新しくなるわけではないので、中学校の場合と同様、いろいろ試し工夫していかなければならないだろう。第2学年、或いは第3学年から履習する各出版社の英語ⅡBの教科書を見るにつけ、週3時間英語で中学を卒業してきた生徒の英語力を1年ないし2年間でこれだけの英語が読めるように高められるか不安にかられる次第である。かつていわれた中学英語と高校英語のギャップは、英語Ⅰ・Ⅱを中学校からの継続の総合英語形式で学び、かつ単語数を制限したり新出文法事項を整理することで解消しているかのように見えるが、中学英語と英語ⅡBとのギャップは歴然と残っている。高校2年から英語ⅡBを履習する学校もあるかもしれないが英語Ⅱ未完了の状態では英語ⅡBを読むのは、不可能に近いと思われるので、多くの学校は3年生で英語ⅡBを履習するカリキュラムをとっていると思われる。本校も、そのカリキュラムであるが、それでも2年間で中学英語と英語ⅡBのギャップを埋めるのは大変だと思われる。英語Ⅰ・Ⅱにおいては、新出単語や熟語・構文・文法事

項を学習しながら本文を読まなくてはならない。ある程度、本文をまとめて読ませる力をつけるためには、単語・熟語は別としても、構文や文法事項は、できるだけ早い時点で一通り終わりたい。そこで1年生のうちから文法の準教科書や、構文の参考書を勉強するという形式を、普通科高校ではとりがちである。それが良いか否かは別として、そういう形をとる限り中学英語と高校英語のギャップは歴然と残り、多くの生徒が高校に入って急に英語が難しく、かつ大変になり、学力の伴わない生徒は英語がきらいになるであろう。

#### 2 昭和58年度高校1年生に英語Ⅰを教えて

昭和59年度、本校高校1年生には、英語Ⅰの教科書として、「THE NEW AGE ENGLISH 1」(研究社)を採択した。この教科書は、一課が、① LET'S SPEAK ② LET'S LEARN ③ LET'S READ ④ C,mprehension check と分かれていて、3課ごとに文法の「まとめ」があり、全部で15課からなる。LET'S SPEAK は対話形式の会話文で、本文の Introduction 的な内容で、主として、話すこと、聞くことに重点が置かれている。LET'S LEARN は、その課で習う文法事項のまとめで、pattern practice を念頭においた文型別のまとめ方がしてあり、3課ごとに、前述の「まとめ」がある。LET'S READ がいわゆる本文でこれまでのリーダーの教科書と変わらない。Comprehension Check はどの教科書にもある Exercise である。故にこの教科書の特徴は、LET'S SPEAK と LET'S LEARN にあるといえる。LET'S SPEAK で話すこと聞くことから、いわゆる、Oral Introduction 的な本文への導入を行い、LET'S LEARN では、従来文法の授業で行なわれがちで、文法説明を排除して、文型としてあらゆる文法導入を行っている。共に目と耳と口によるドリルから、導入していく帰納的指導もくろんでいる。従来の文法学習は、年に5回、「まとめ」で行うよう極力少なめにしている。

先程から問題にしている中学英語から高校英語へとという連携面では、非常によく工夫されているので、本教科書も採択に至ったのだが、やはり、高校としての英語力を身につけ、ひいては英語ⅡB、ⅡCへと進

んで行くためには、読む力・文法力・書く力を養っていかねばならない。そこで本文を読むにあたっては、内容をしっかり読みとる力と書く力を養うべくプリントを作ることにした。又、文法力は、本校でも、週5時間の英語 I に割り当てられた時間のうち2時間を、文法の準教科書 (UNICORN ENGLISH GRAMMAR) に当て、文法力を充実させることをもくろんだ。

さて、私は、5時間から文法の2時間を引いた、週3時間を、便宜上、リーダーという呼び名で英語 I を担当することになったのだが、概して次のように授業を展開していった。

① LET'S SPEAK (授業時教1)

a) Oral Introduction

教科書を開く前に、主として生徒の身のまわりのことを、中学校で既習の英文による問いから入っていき、生徒に答えさせる。たとえば Lesson 1 ならば、For Practice を教科書を開く前に生徒と対話をして授業に入った。

b) New Words

c) Tape による Listening

d) 音読練習

e) 内容理解

f) 対話練習

宿題として、対話を暗唱させ、昼や授業後にペアで発表に来るようにさせた。

② LET'S LEARN (授業時数1)

主に pattern practice による口頭での Drill を中心に授業を進め、文法説明もつけ加えた。口頭練習は、教科書の練習問題だけではやや不足しがちなので、指導書の補充問題を活用していった。学校では Oral Drill に徹底し、宿題として、その日口で練習した文をすべてノートに書いてくるようにさせた。

③ LET'S READ (1パート1時間が目標。長いパ

ートの時は2時間に分割。LESSON 1 の場合は授業時数3)

予めプリントを配布しておき、そのプリントを、予習、授業、復習で随時活用するように指示した。予習においては、教科書を読むにあたって◎印の、大意質問を考えながら読み、それがわかったら、Q印の英問に答えてみる。それからもう一度精読し、各種の設問に答えてみる。わからなかった設問は、授業で聞きもらすことのないようチェックする。復習や試験前の勉強でも、もう一度その設問に答えられるかどうか活用するように促した。

④ Comprehension Check (授業時数1)

教材テープを活用し、本文の listening や重要文の Dictation も取り入れた。

結果的には、週4時間用の教科書を、週3時間で一通り読み終えようと、かなりのスピードで進んで行ったので、生徒側からすれば、大変であったに違いない。しかも、書く力もつけなくてはと、プリントに英作文練習もかなり取り入れたので、消化しきれない生徒もいただろう。<sup>\*2</sup>教材の与え過ぎや教え過ぎは、生徒の学習意欲を低下させる、というが、反省しなければならない点であった。

が、とにかく次のアンケート結果で、生徒達の意識状況を見てみることにする。

3 アンケート結果

4月の最初の授業と、3月の学年末テスト時に、次のアンケートを実施した。アンケート番号1,2は、4月、3月共に行った共通項目で、アンケート番号3,4,5は学年末テスト時(3月)のみの結果である。

アンケート対象は、本校、高校一年生、3クラス、134名で、年間成績で上位(25名)、中位(68名)、下位(41名)に分けた。又、数字はすべて百分率(%)で表わしてある。

アンケート項目		4月(%)				3月(%)			
		上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位	全体
1. a) 英語は好きな科目ですか	(1) 好き	52	16	12	22	48	13	7	18
	(2) ふつう	32	65	44	53	48	68	54	60
	(3) 嫌い	16	19	44	25	4	19	39	22
b) いつからきらいになったか (きらいと答えた者のみ)	(1) 中1				46				38
	(2) 中2				41				27
	(3) 中3				3				4
	(4) 高1								31

#### 4 アンケート結果からの考察

英語が好きか嫌いかに関しては、成績上位者に好きな者が多く、下位者に嫌いな者が多いのは、あたりまえのことであるが、下位者にも好きな者がかなりいるので、そういう者たちに対して、興味を失わせないように、学力の向上を図らなくてはならない。又、ふつうと答えた者が多いが、彼らは、今後我々の指導法次第で好きにもなり、嫌いにもなる生徒であるから、英語ぎらいにならないようにしむけなくてはいけない。

4月時と一年後の3月時を比較してみると、数字的には大きな変動は見られないが、個人的に見ると、半分近くの生徒が意識が変わっていた。このことは、英語が好きだといっている、ちょっとしたことから、好きでなくなったり、逆に、嫌いといっている、ちょっとしたことから、嫌いでなくなるという実態を表わし、英語を教える側としては、このことをよく認識しておかねばならないだろう。

いつから英語が嫌いになったか、に対しては、中学1年からと答える者が一番多く、中2中3と進むにつれて減り、特に中3から嫌いになった者は、著しく少なくなっている。それに対して、高1から嫌いになった者がぐんと増えている。このことは入問期の英語指導がいかに大切かを物語り、中学にせよ、高校にせよ、一年生に対して英語を嫌いにならないよう、指導を工夫する必要があるだろう。

なぜ英語を嫌いになるのかは、\*3「わからない」「できない」「難かしい」が三傑である。これは、「英語教育（大修館）」1983年11月号の斎藤先生の論文でも全く同様で、斎藤先生は、こういう生徒に対して、教師は「どうやったら生徒にわからせることができるか」という一点に集中すべきだと説いている。あたりまえのことではあるが、英語に限らずどの教科においても最も大変なことなのであろう。

では、どの分野が好きで、どの分野が嫌いなのだろうか。アンケートによると、中学英語においては、話す、書く、文法が嫌いな生徒が多いのに対して、高校になると、文法が嫌いな生徒は依然として多いが、単語と熟語を覚えることが嫌いな生徒が激増している。書いたり、話したり、内容を読みとったりする創造的なことは、好きなの方が上回っている。要するに、めんどろな暗記作業は嫌いなのであり、英語を活用して何かをすることは好きなのである。たとえ難しくても、努力の結果、英語を使って、書いたり、話せたり、内容がわかったりすることで、成就の喜びを感じ、英語を好きになるのである。話すこと、書くことは、恐らくはそういったことが満足にできない成績下位の生徒でさえも、好きな方が多いのは、特筆に値する。つ

まり、中学校である程度の基礎を習ってきた生徒たちは、高校に入って、意識しないまでも、英語を活用したがつているのである。そういう生徒達に、難しい単語や熟語、文法、構文などを、受身的に覚えさせることは、英語嫌いを増やす結果を招いてはいただろうか。

今一つは、高校英語の量、スピードの問題である。単語、熟語を覚えることが嫌いな生徒が、著しく増えているのは、単にめんどろな受身的作業だからではなく、中学英語の数倍にも達する量が要因であり、文法事項でも、中学校低学年では、文法などあまり意識せずに英語を学習していた生徒が、ものすごいスピードで細かな規則をたたきこまれる結果として、嫌いになっていくのである。しかし英語学習にはめんどろな暗記がつきものであり、単語、熟語を覚えるにせよ、文法事項にせよ、いかにして生徒を受身的でなく主体的に動かすかがポイントになるだろう。

生徒達とはとにかく、高校英語に対して、予習・復習の大切さを痛感し、勉強時間も増え、がんばろうという姿勢は示しているのであるから、そういう生徒達のやる気をくじかないように見守りながら、難しい高校英語を与えていかななくてはならない。進度ばかりに気をとられて量を与えすぎ、消化不良を起こしがちな我々ではあるが、生徒達が主体的に量をこなしていけるよう配慮してやるのが大切なのであろう。「中学よりも積極的に取り組むようになった。」という上位生徒の意見こそ、我々英語教師が最も目指していかななくてはいけないところなのである。下位生徒でさえ、

「中学の時は暗記だけだったのに比べ、おもしろくなってきた。」と答えている者もいるのだから、単にできないから、わからないから、難しいから、おもしろくなく、嫌いになると、片付けることはできないと思われる。

さて、昨年度高校1年生への私のリーダーの授業であるが、LET'S SPEAK を丸暗記させて、二人でペアを組ませて全員に発表させたわけであるが、この丸暗記というめんどろな受身的作業が良かったという生徒が、意外にも半分もいるのであった。実際の場合では、「また暗唱か。」と、うんざりする生徒も少なくなかったのであるが、それを単に紙に書かせてチェックするのではなく、対話という能動的作業として個人発表させたのが良かったのかもしれない。LET'S LEARN の文法でも、極力、文法事項のつめこみは少なくし、pattern practice や同型の英作文をさせ、いわゆる文法の授業をしなかったことが、良かったのかもしれない。参照として付した予習（復習）プリントも、大変難しい設問もあり、多くの生徒が予習の段階ではわからなかったり、活用さえもされなかったりもして

英語 I の授業実践例と生徒の意識

- ④ 予習・復習をしないといけないと思った (多い)
- ⑤ 中学より勉強しなくなった (多い)
  - ・予習しようと思っても難しくなかなかできない
  - ・中学の時は暗気だけだったのに比べおもしろくなってきた
  - ・少しは好きになったが、わからないことが多い

			上 位	中 位	下 位	全 体	
4. リーダーの教科書は LET'S SPEAK (会話文) LET'S LEARN (文法) の3つから成りたててい ますが、それぞれについ て、次の問いに答えなさい。 (数が合わないのは無解 答のものがあるため)	ア) LET'S SPEAK は	(1) 興味もてた	1 6	2 8	3 2	2 7	
		(2) 普通	8 0	6 3	5 1	6 3	
		(3) 興味もてなかった	4	9	1 5	1 0	
		(1) わかりやすかった	5 6	5 6	3 2	4 9	
		(2) 普通	3 2	3 8	5 9	2 8	
		(3) わかりにくかった	8	1	7	4	
		LET'S SPEAK を 何度もペアで暗唱してもらい ましたが、このことは	(1) よかったと思う	4 0	4 7	4 9	4 6
			(2) 普通	5 6	4 9	3 9	4 7
			(3) よくなかった	0	4	1 0	5
	(1) 役に立ったと思う		5 2	5 3	4 1	4 9	
	(2) 普通		3 6	4 1	4 1	4 0	
	(3) 役に立たなかった		0	1	1 5	5	
	イ) LET'S LEARN は	(1) 興味もてた	8	1 3	1 0	1 1	
		(2) 普通	6 4	5 4	5 9	5 6	
		(3) 興味もてなかった	2 8	3 2	2 9	3 1	
(1) わかりやすかった		2 8	2 2	1 0	1 9		
(2) 普通		6 0	4 7	4 0	4 9		
(3) わかりにくかった		8	2 8	4 4	2 9		
	LET'S LEARN に関 して補充プリントを配って文 法の整理をしましたが、この ことは	(1) よかったと思う	7 2	6 5	5 4	6 3	
		(2) 普通	2 0	3 4	3 9	3 3	
		(3) よくなかった	0	1	7	3	
		(1) 役に立ったと思う	7 2	6 2	3 9	5 7	
		(2) 普通	2 4	3 1	4 9	3 5	
		(3) 役に立たなかった	4	3	7	4	
	ウ) LET'S READ は	(1) 興味もてた	5 6	3 5	4 3	3 4	
		(2) 普通	3 6	5 1	3 9	4 6	
		(3) 興味もてなかった	8	1 0	1 8	1 3	
		(1) わかりやすかった	4	9	5	7	
		(2) 普通	6 4	4 7	4 4	4 9	
		(3) わかりにくかった	2 8	4 0	4 6	4 0	
LET'S READ に関し て毎回予習(復習)プリント を配りましたが、このことは	(1) よかったと思う	7 6	8 2	8 0	8 1		
	(2) 普通	2 0	1 5	2 0	1 7		
	(3) よくなかった	0	0	0	0		
	(1) 役に立ったと思う	7 6	8 1	5 9	7 3		

アンケート項目		4月 (%)				3月 (%)			
c) きれいになった理由は (代表的意見)		わからない, できない, むずかしい 先生の影響, なんとなく				わからない, できない, むずかしい 先生の影響, 速度が速い おもしろくない			
2. 英語の次のどの分野が好きですか, きれいですか. 好きなものに○, きれいなものに×をうちなさい. (○, ×はいくつうってよい.)	(1) 聞くこと	○			33	48	24	34	31
		×			36	28	40	44	39
	(2) 話すこと	○			13	56	40	44	44
		×			46	24	25	39	29
	(3) 内容を読む みとること	○			39	36	43	37	40
		×			32	40	26	46	35
	(4) 書くこと	○			17	44	37	37	38
		×			56	28	22	29	25
	(5) 文法	○			10	16	21	10	16
		×			69	60	47	68	56
	(6) 単語・熟語を覚えること	○			24	4	10	10	9
		×			39	72	50	68	60
次からの項目は高1学年末テスト時(3月)のアンケート結果のみである。									
3. 高校生になって英語という科目に対する気持ちや勉強法がどのように変わったか書きなさい。 (代表的意見)		<上位> ① 予習・復習の大切さを痛感した(とても多い) ② 中学よりも勉強するようになった(多い) (毎日) ・辞書を使うようになった ・中学の時は丸覚えだったが, 高校になって文法的に文を作るようになった ・読んでいって文章の流れをつかむようになった ・中学よりも積極的にとりくむようになった							
		<中位> ① 予習の大切さを痛感した(とても多い) ② むずかしく量も多くなって困った(とても多い) ③ わからなくなった(多い) ④ 進むスピードが速くて大変(多い) ⑤ 中学よりも勉強するようになった(多い) ・ついてゆくためには予習が必要になった ・単語の量がふえて大変 ・英語が2科目になって大変 ・文法をしっかり勉強するようになった ・毎日勉強するようになった							
		<下位> ① 難しくなった(とても多い) ② 量が増えて大変になった(多い) ③ わからなくなった(多い)							

		(2) 普通	2 0	1 6	3 2	2 2
		(3) 役に立たなかった	0	0	5	2
エ) このプリントをどこで活用 しましたか○をうちなさい (○をいくつうってもよい。)	(1) 予習		4 4	4 9	2 9	4 2
	(2) 授業中		4 8	7 2	7 8	6 9
	(3) 復習		3 2	3 2	2 0	2 8
	(4) テスト前の勉強		8 0	8 2	7 6	8 0
このプリントは ア) ◎日本語で大意を 考える	ア) 日本語で大意を 考えることは	(1) 役に立った	4 8	4 4	4 4	4 5
		(2) ふつう	4 0	4 9	5 1	4 8
		(3) 役に立たなかった	1 2	6	5	7
イ) Q 英問英答 ウ) 本文のいろいろな 設問から成り立っ ていますが	イ) 英問英答は	(1) 役に立った	4 4	5 4	4 6	5 0
		(2) ふつう	5 6	4 4	4 9	4 8
		(3) 役に立たなかった	0	1	5	2
	ウ) 本文のいろいろな設問は	(1) 役に立った	7 2	6 6	4 6	6 1
(2) ふつう		2 0	3 1	5 1	3 5	
(3) 役に立たなかった		8	1	2	3	
5. 一年間のリーダーの授業に関して、どんなことでもよいから、意見、感想を書きなさい。						
この項に関しては、教師への感謝、授業の進め方に対するさまざまな意見、英語の重要性、必要性に関すること等、さまざまな意見が書かれていたが、ここでは紙面の都合で省略することにする。						

はいるが、結果としては予習に限定せず、自分の最も活用できる場で使っていた様である。もちろん作成した方では、予習にも復習にも十分活用してほしかったわけであるが、やってこなかったり、わからなかった生徒もいた。しかし、授業で叱るのではなく、授業で聞きながらプリントを進めるように指導していった。それで授業後も友達同士で答を確認しあっている姿も見られた。

個々に見ると、日本語で大意を考えることは、やはり苦手な生徒が多いようで、本当は授業前の予習の段階でまとめてほしかったのだが、実際には、授業もしないうちからそこまでやれる生徒は少なく、結果的には、パートを読み終ってからの要約として活用していった。日本の英語教育で陥りがちな、「訳せても何を言っているのかわからない」又、「部分を見て、全体を見られない」ことのないよう願ったわけであるが、まだまだ生徒達は、訳や部分にこだわってしまい、要旨を把握することまで及ばないようである。

又、英問英答も、本来は、内容を読解した後、初めて聞く英語に、自分の英語で答えさせたいところであるが、とてもそこまで要求することができないのが現状で、何とか英語で答えさせるためには、授業中に聞く英問を、前もってプリントで配布しておき、教科書を参考に答えさせておき、その上で授業中やりとりすることにした。できれば、予習してある生徒には、自分の出した解答を見ずに、頭の中で英語を組み立てて

答えてほしかったが、そうできる生徒は殆んどいなかった。

最後に、本文のいろいろな設問に関しては、テストに、その問題を出すということで、生徒は熱心に答を求めた。なぜそうなるのかもわからずに丸暗記する生徒もいたが、やる気を起こさせる、という面では、ただ教科書の何ページから何ページが範囲というのではなく、「このプリントから同じ問題を出すぞ。」と、はっきり言ってやると、勉強意欲が著しく違ってくる。結局は授業中にする説明や補足を問題形式にしてまとめたただけのことであるのだが。ただ、量も多く、生徒も授業での解答をはしおると、「先生、プリントの答がしてないよ。」などと、指摘してきて、読むことよりも問題に答えることを先に考えてしまいがちで、難しい点がある。又、下位生徒には大変難しく、苦しいプリントであったに違いない。

## 5 おわりに

「きれいな科目は何ですか」と聞かれると、英語と答える生徒が、数学と並んで最も多い現状である。特に普通科高校においては、英語は、数学と並んで最も時間数が多く、大変な科目だから、当然のことだろう。又、カリキュラムや大学入試準備のために、最もつめ込みを必要とする科目であることも間違いない。裏返せば、生徒側はどうしても受身的になり、英語は暗記科目と化してしまう。もちろん、暗記することも大切

だが、リーダーの授業の時訳された和訳文を一生懸命暗記したり、グラマーのこと細かな日本語による文法規則を暗記するのが、英語の勉強になっている生徒を見ると、英語という言語とは全くかけ離れた科目を教えていることにはならないだろうか。<sup>\*4</sup>生徒の主体性が伴わなければ言語活動は成り立たないのであり、主体性を伴わなければ、決して英語を好きにはなれないのではないか。場面や文脈を観察し、変化する状況を洞察し、自ら思考し理解していく楽しみ、ことばを習い使う楽しみ、相手に自分を理解してもらおう楽しみ、他の仲間とお互い transceiver として協調性を発揮する楽しみ、そのような主体性を伴う喜びを学習の中に見つけていかせるよう工夫しなければ、たとえ現在、「英語が得意科目だから好き」だと答える生徒でも、いずれ英語がきらいな科目になってしまうだろう。

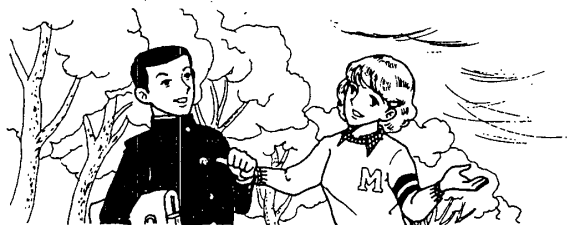
生徒の学習意欲を換気させるために、私も、<sup>\*5</sup>授業にゲームを取り入れたり、VTR や歌を利用したりして、様々な工夫をしてきた。単語を覚えることが大嫌いな中学生が、授業で単語ゲームをすると目の色変

えてがんばったり、VTR で映画を見せたり、ビートルズの歌を聞かせたりする時だけは、英語に興味を示す高校生の例も、つきつめれば、「いかに英語を主体的に考えるか」という観点に集約される。その観点から、単語や熟語を覚えさせることも、文法規則を教えることも、構文や重要文を暗記させることも、生徒へ教授を工夫してみる必要があるように思われる。要は「いかに生徒を主体的に動かして、その学習をさせるか」ということであろう。

- \* 1 高橋恵亮、宮田学、山田雄一 「週3時間への移行をめぐる」(本校紀要 第26集)
- \* 2 松畑熙一 「教えすぎの反省」(大修館「英語教育」1981年1月号)
- \* 3 斎藤栄二 「やる気をいかに起こさせるか」(大修館「英語教育」1983年11月号)
- \* 4 山田喜芳 「生徒の主体性を高める工夫」(大修館「英語教育」1981年1月号)
- \* 5 宮田学、山田雄一 「中学一年における2つの試み」(本校紀要 第25集)

## 1. New School Life

### LET'S SPEAK



Mary: Congratulations, Ken! You are now a freshman in senior high school.

Ken: Thank you, Mary. What do you think of me in my new school uniform?

Mary: You look great. I really believe that clothes make the man.

Ken: I think the man is always greater than his clothes.

Mary: How do you like your new school?

Ken: I like it very much. The school buildings are old, but it has a good tradition.

Mary [mɛəri] congratulation [kɔŋgrætʃuleiʃən] freshman [frɛʃmən]  
senior [si:njər] tradition [tradiʃən]

clothes make the man (ことわざ)馬子(馬)にも衣装。  
[ 1 ]

Mary: Is it a large school?

Ken: Yes, it is. Each year has nine classes. I'm in Class 1 of the first year.

Mary: What do you want to do in your school?

Ken: To study, first of all, and I want to try something new.

Mary: What's that?

Ken: Judo.

### For Practice

あなた自身の学校生活について、次の問いに答えなさい。

- How do you like your new school?
- How many students are there in your school?
- Who is your homeroom teacher?
- What does he or she teach?
- How do you come to school?
- What do you do after school?

### Pronunciation Drill

- [i:] Please meet Pete at the tree.  
[i] His sister lives on the hill.  
[æ] Jack had a black cat.

Pete [pi:t] Jack [dʒæ:k]

first of all まず最初に。

### LET'S LEARN

I My dog runs very fast.  
We went to England two years ago.

次の語句を用いて、上の文型を練習しなさい。

- walk / school / yesterday
- sleep / eight hours / a day
- play / park / last Sunday

II My name is Ken Yamada.  
My sister became a teacher.  
I feel fine today.

次の語句を用いて、上の文型を練習しなさい。

- buildings / old but clean
- become / singer
- get / warm / March

III There is a picture on the wall.  
There are cherry trees in the park.

次の語句を用いて、上の文型を練習しなさい。

- bird / cage
- 45 students / class
- 16 candles / birthday cake

IV Tom is taller than Mary.  
Mary speaks French better than Nancy.

次の各文の( )内の語を適当な形にしなさい。

- You look (well) today than yesterday.
- Nothing is (important) than good health.
- He runs (fast) than any other boy in his class.

Tom [tám] Nancy [nánsi]

### LET'S READ

## New School Life

(1)

My name is Ken Yamada. I am a freshman of Higashi Senior High School. The school is in the center of the city, so I have to take a bus. It takes about half an hour.

I like my new school. The buildings are old but clean. When I first went to school, the cherry trees around the playground were in full bloom. Everything about the school was fresh and new to me.

The opening ceremony was very impressive. The four-hundred freshmen and their parents took part in it. Some of the juniors and seniors were there to welcome us. The principal said, "Congratulations! Our school has a long history and a good tradition. You can be proud of it."

There are nine freshman classes. I am in Class 1. I think all my classmates are nice. I hope I will be able to make friends with them as soon as possible.

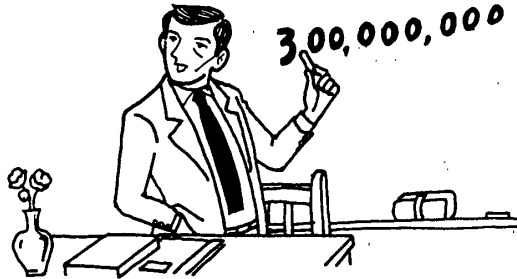
bloom [blú:m] ceremony [sérámòuni] impressive [imprésvi]  
principal [prinsapəl] possible [pásabl]

be in full bloom 満開である。 opening ceremony 入学式。 take part in に参加する。 be proud of を誇りに思う。 make friends with と友達になる。 as ~ as possible できるだけ。



(2)

Mr. Nakada is our homeroom teacher. He teaches us English.



Today we had our first English class. After greeting us, Mr. Nakada began by introducing himself in English. He really spoke good English! After he introduced himself, he talked about learning English. He said:

“Some of you may think that we don't need to learn English, because we already have our mother tongue, Japanese. But we have to learn English. I will tell you why.

“There are more than 3,000 living languages in the world now. Among them, Chinese is spoken by the greatest

**greet** [grit]    **introduce** [intradjú:s]    **tongue** [tʌŋ]

tell ~ why ~に理由を話す。

number of people as their native language. More than 500,000,000 people speak it. English comes next. About 300,000,000 people speak it as their mother tongue. But as an international language, English is most widely used in everyday life and business.

“The world is now becoming smaller and smaller. Japan is not just a country in the Far East. More and more people move to and from Japan. We must think not only about ourselves but also about the rest of the world.

“So we need a means of communication. If we understand English, we can communicate with people from other countries.”

(3)

Mr. Nakada also talked about how to use dictionaries. He told us to look up new words in our dictionaries before class. Then he talked about how he was going to teach us. He promised to speak as much English as possible in class. Finally he said:

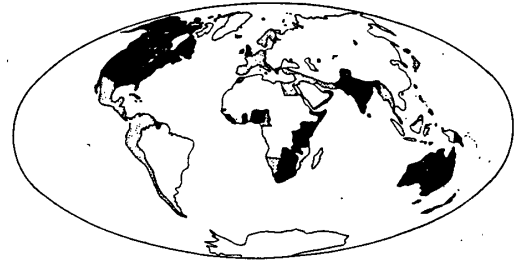
“Speaking English is very exciting. When you speak

**native** [néitiv]    **business** [biznis]    **means** [mi:nz]    **communication**  
[kamjù:nakéifən]    **communicate** [kamjù:nakèit]    **promise** [prámis]  
**exciting** [iksáitiŋ]

300,000,000=five hundred million.    not only ~ but also... ~だけでなく  
...も。    the rest of the world 世界の他の国々。    look up を調べる。  
before class 授業の前に。

English, you may find that you are quite a different person. You can enjoy a new adventure.

“You began to study English three years ago. You have some basic knowledge of it. English will become more and more difficult. But don't be afraid. Keep on studying and never give up.”



■ 英語を公用語または準公用語とする国々  
□ 英語を通用語とする国々

**adventure** [advéntʃər]    **basic** [béisik]    **knowledge** [nólidʒ]

keep on ~ing ~を続ける。    give up あきらめる。

1. NEW SCHOOL LIFE

p. 4 (1)

◎ 山田 健 はどんな生徒か？

健の学校はどんな学校か？

健はどんなことを思ったか？

- Q. 1. What is Ken Yamada?  
2. Where is his school?  
3. How does he go to school?  
4. How long does it take from his house?  
5. How does he like his school?  
6. How are the school buildings?  
7. Where are the cherry trees in his school?

1. 6. 4月には学校のさくらが満開になります。

8. impressive--n. \_\_\_\_\_

9. take part in=( \_\_\_\_\_ )

I want to take an active part in his business.

12. その母親は自分の息子を自慢に思っていた。

15. 私はジョンと友だちになりたい。

16. as soon as possible=as soon as ( \_\_\_\_\_ )( \_\_\_\_\_ )

できるだけ早く来てください。

\*Put the following into English:

1 京都から東京まで新幹線で約3時間かかる。

2 私が最初に彼にあった時、彼はまだ小さな少年でした。

3 たくさんの人が式に参加した。

4 私はクラスメートみんなと仲の良い友だちになりたい。

p. 5 (2)

◎ 中田先生はどんな先生か？

最初の授業で彼はどんなことをしたか？

どんなことを言ったか？

なぜ英語を学ぶことは大切か？

- Q. 1. Who is his homeroom teacher?  
2. What does he teach?  
3. Does he speak English well?  
4. Some of us think that we don't have to learn English. Why?  
5. Why is it important to learn English?  
6. How many people speak Chinese in the world?  
7. What language comes next?  
8. How many people speak it?  
9. Why is English more important than Chinese?

1. 3. 昼食を食べた後、トムは野球をしにでかけた。

1. 4. We talked about making cake.
  5. 私に自己紹介して下さい。
  6. learning は動名詞か分詞か?
  7. don't need to=don't ( ) to
  8. tongue=( )
  10. why=( )( )
  11. living は動名詞か分詞か?
- 6.
1. 1. native language=( )( )
  2. 500,000,000=( )( )
  6. だんだん暖かくなってきている。
  8. トムはギターだけでなくピアノもひける。  
\*I like not only playing baseball but also watching it.  
=I like watching baseball ( )( ) playing it.
  10. communicate--n. \_\_\_\_\_  
people from other countries=( )
- (3)
- ◎ 英語の勉強の際、大切なことは?  
なぜ英語を話すことは exciting か。
- Q. 1. What did Mr. Nakada told them before class?  
2. He talked about other things. What are they?  
3. What did he promise to do?  
4. Why is speaking English exciting?
- 6.
- 1.14. He told us to look up new words in our dictionaries before class.  
=He said to us, " \_\_\_\_\_"  
" \_\_\_\_\_"  
その単語を辞書でしらべなさい。
  16. 彼は我々に援助してくれると約束した。
  16. 若い時はできるだけたくさん本を読みなさい。

7

1. 1. 新しい服をきると、全く違った自分になっているのに気づくか。
3. You began to study English three years ago. もしれない。  
=You \_\_\_\_\_ for three years.
4. know--n. \_\_\_\_\_
5. Most people are afraid of snakes.  
I have nothing to be afraid of.
5. どの生徒も勉強を続け、決して途中であきらめてはいけない。